

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600731		
法人名	杉友商事(株)		
事業所名	グループホームあすなろ2Fユニット		
所在地	名古屋市天白区島田2-621		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分で行動し、希望を表現出来る利用者様がすくないので、何が出来て、何が出来ないのか、何が好きて、何を希望されるのかを日々の観察、生活歴から推測し、生き生きとした表情を見せて頂ける様、工夫し支援している。毎日の家事活動に参加される方、力仕事を得意とされる方、日めくりカレンダー係りの方等、その方の持っている力を発揮出来るよう、声かけを工夫し参加していただいている。

日々の健康管理に注意を払い、細かく観察、記録をし異常の場合は主治医に相談し、歯科、皮膚科の往診を受け、通院介助をしている。

年2回のばす旅行、みかん狩り、月一回の外出と喫茶の他に、公園でお弁当を食べたり、ご本人が喜ばれそうな所へ個人的に出かけたりして、ゆったり、楽しく生き生きと暮らして頂ける様工夫し支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念で掲げている「ゆったり楽しく生き生きと暮らせる為の支援をします。私達はお一人お一人の尊厳を大切に敬愛の念を持ち支え合います。」を職員同士意識共有に努め日々実践に繋げている。職員は利用者のペースで自由にゆったり自己決定が出来るように、又その人らしい生活が送れるような支援を心がけている。一人一人の介護記録、日々の生活状態など細かくファイルに記録されおり、職員が共有して現状変化にも随時対応している。地域の囲碁の交流、区の外出支援ボランティアの活用で、みかん狩りなど地域との交流の輪を広げている。職員は研修会や勉強会に積極的に参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は「私達は、ゆったり、楽しく、生き生きと暮らせるための支援をします。私達は、お一人おひとりの尊厳を大切に、敬愛の念を持ち、支えあいます。」の理念を実現すべく、日々努力している。	職員はホーム独自の理念を共有し、利用者へのケアが理念に沿ったものであるよう日々確認している。利用者の意向を優先的に考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	学区の民生委員様に運営推進委員会の委員になっていただいている。 町内会に入会し、回覧板による情報で催し物に参加させていただいている。	地域の神社の餅まきや区民祭りに参加したり、子供会主催の廃品回収にも協力して、交流に努めている。商店に買い物や散歩に出掛ける際には、近隣の住民と立ち話しや挨拶を交わすなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	目に見えての地域貢献はないが、福祉用具、介護保険の問い合わせに応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員様の情報、包括の情報を利用して頂いている。	民生委員、包括支援センター職員、家族などを交えて会議を実施して、ホームの現状や取り組みについて話し合っている。会議の議題に出された嚙下障害対処法についても順次研修を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族様からのご依頼で、市町村担当の方へ相談している。	日頃から区の担当者と連携を図り、ホームの現状や活動を理解して貰い、職員は市主催の研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の意味を研修にて理解しており、利用者様は自由に館内を移動しておられる。が、幹線道路も近く、側にある区役所への出入りの車で危険なため、玄関の施錠だけさせていただいている。	月1回各ユニットのリーダーの勉強会で身体拘束についても話し合い、その後各ユニットの会議で、支援の仕方や気が付いた点や改善点を話し合っており、身体拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修にて行っており、職員はレポートを書き、自ら考え、見過ごす事のない風土が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用する必要がある方は現在いらっしゃらないが、学ぶ機会はある、これから必要が生じそうな方には、活用をご提案していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重ねて説明を行っているが、長期に亘ると、記憶にない場合があるので、機会を設け再度の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。御面会時には、最近のご様子をお知らせし、ご質問、ご要望がないかを確認している。	家族の面会の際や運営推進会議などの時に、利用者の状況を伝えたり、ホームから提案を出したり家族との連携を図っている。家族からの要望、苦情に対しても会議で話し合い、前向きに取り組み改善していくように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回のアンケート調査を行い、意見箱を設置している。	管理者は、職員から相談をよく受け信頼関係を築いている。一例として職員から出された、利用者の作品展示の提案などを取り入れた。職員の意見は管理者から代表に伝わり、改善できるところは対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を用い、本人、ユニットリーダー、管理者、施設長が評価し、あらゆる角度から評価を行い、努力が成果(昇給)に反映できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は常勤非常勤を問わず、参加を募っている。又必要と思われる研修は参加を促がしている。社内研修は毎月、法人でテーマを決めリーダー研修を行い、それをユニットごとに行っている。その他にユニットごとに認知症の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会が多く、その場で情報交換している。 又、法人内の他事業所との交流もあり、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際して、要望をお聞きしている。 入居されてからは、表情、行動を観察し、話に耳を傾け不安のない生活が出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様よりお話を聞き、ご本人様が安心して生活出来るよう、職員がどのように対応するかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の話に耳を傾け、何が必要かを見極め、種々のサービスがある事を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動をともに行い、疲れたらうと肩をもんでくださる方もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どのような支援が最良なのか、ご家族と話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設へ入所された方を、仲の良かった方と面会に行ったり、今までの暮らしでの懐かしい場所へ出かけたりしている。ご家族の協力を得られる方もある。	職員又は家族の付き添いに寄り、馴染みのあるカラオケ店、銭湯、友人との面会など、継続して外出する支援が出来るように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方、話の合う方と過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所された方を、仲の良かった方と面会に行ったり、ご家族より入院後の経過等報告、相談を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を表現される方は少ないが、生活歴、過去の趣味志向から、又は表情から推測し、ご本人の意向にそえるように勘案している。	職員は利用者日々の生活の中で希望や要望を表情や会話の中から把握できるように努めている。また、利用者の思いを把握できるように研修に参加したり、マニュアルを作成して観察力が身につくよう日々努力している。	管理者は利用者一人ひとりの思いを把握できるように研修に参加しており、今後は職員にもセンター方式の研修などに参加を促すとのことである。是非、実現することを望んでいる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に聞き取りを行っている。不明瞭なところは、ご本人にお聞きしたりして、記録を取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌に、時間ごとにどういった行動をされたか記録しており、定期的に来る事、解ることをモニタリングしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、ご家族様、職員の意見などを反映させ、現状に即した介護計画書を作っている。	利用者、家族の意向を大切にし利用者の身体状況により、3か月から6か月に1度は見直しを行っている。また、本人の希望に沿えるように個別対策表を活用して月2回のミーティングに活かしている。意見、要望を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、タイムテーブルで記入し、ご本人が発せられた言葉を赤字で記入。ケアの実践、結果等記入し情報を共有、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスを利用したり、個別に出かける支援をしている。状況に応じ出来るサービスの方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でボランティアで来てくださる方との交流、地域での買い物時のやさしい心使い等で安全で豊かに暮らせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に確認し、希望のかかりつけ医を受診して頂いている。体調の変化の際の受診も確認を行い、受診をしている。	事業所の協力医の他、かかりつけ医の医療を受けられるように家族と話し合い通院介助を行うなどしている。突発的な時には家族、医師との連絡や連携を密にして対応している。通信記録で家族に往診など分かりやすく発信している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内にはいないが、同法人の看護師のいる事業所が同じ建物にあり相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリーを提供し、退院時には、病院関係者と状況等連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての説明を入所時に説明している。体調が衰えつつある方には、十分に説明をし、特養や、老養型の病院等を案内している。	家族へ重度化になった場合の説明は体調の変化とともに連絡を取っている。かかりつけ医との連携も良好で相談、指導をもらい対応している。職員間の支援方針はマニュアル作成されており事業所でできることの体勢は周知されている。勉強会を実施したり、管理者への連絡、相談、報告の体勢も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、消防署の訓練を受けることになっている。又、ユニットの研修の中でも、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を行っている。又地域の消防団との連携も取れている。	年2回昼間を想定した避難訓練を利用者も参加し実施している。町内会の消防団との応援態勢の約束がされている。非常食や備品の確保は2日分となっている。今後は一時避難時の緊急連絡網などについて検討も考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性に合った言葉かけ、対応を心掛けている。	人前での介護へのはずかしさやプライバシーを考えて、利用者の尊厳を大切にした対応となるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に問いかけるようにしており、表現出来ない方には、表情や、態度を観察し、汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を大切に、確認し、希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の体形にあった、似合いそうな衣類をご家族、職員が相談し、選べる方にはご本人にも確認している。髪形もその方らしく美容師に注文している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	男性利用者も調理参加されており、食材切り、盛り付け等持てる力を発揮していただいている。	職員と利用者が一緒に調理したり、配膳、片づけ等をしている。時には利用者の好きな献立に変更している。また食器の色を考え美味しく分かりやすくしたり、お茶ぜりーなど嚥下障害の人の支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の献立を利用しており、栄養のバランスは考慮されており、摂取量の記録を取っている。状態に応じては、水分摂取量の記録を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人の力に応じ、声かけ、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、時間誘導を行い、声かけを行っている。	個々に合わせた対応をしている。トイレでの排泄を大切に排泄チェックシートを活用しパターンを理解している。その人にあったパットを活用し工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を記録し、繊維質の食物摂取、冷たい牛乳、乳酸飲料等で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添うように支援している。拒否のある方は、タイミングを見つけ、入浴していただいている。	入浴時間を夜6時まで毎日自由に入れるように対応している。(6時以降の対応も可能) 本人の希望に沿うように支援している。入浴担当は利用者の希望に配慮して同性介助の支援をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の必要な方、うとうとしている方等、状況に応じ、臥床していただいている。夜間就寝前には、温かい飲み物を用意し、安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の用法、副作用について研修を行い、学ぶ環境にある。服薬の目的を理解し、確実に服薬できるように支援している。症状に変化があった場合には、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何が好きで、何が楽しいか、表情、行動観察を行い、常に勘案している。少人数で喫茶店へ行ったり、買い物に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を言われた場合は、極力希望に添っている。ご家族と一緒に外出される方もある。	日常的な外出支援として毎日散歩に出かけている。趣味を活かせるように買い物へ出かけたり天白区主催の散歩ボランティアに参加している。月2回は外食、外出の企画を立て遠出はボランティア員と出かけている。利用者の希望で職員と一緒に銭湯へ出かけたこともあり希望に沿う支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その力を持っている方には、自己にてお財布の管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけ、話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、混乱をまねかないよう工夫し、危険のないよう配慮している。又季節を感じられるよう、展示物に工夫している。	共用スペースにあるソファは運営推進会議参加者から提案されて、立ち上がりやすい物にするなど生活しやすいように環境を整えている。光や雑音などで不穏にならないように配慮している。季節の花や野菜作りを行い季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者自身で、居心地の良い場所を探し、過ごしておられる。歩行困難な方に対しては、相性の良い方と過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具を持参していただくようお願いしている。お仏壇を持ってきておられる方もある。	ダンスや家族の写真、お仏壇など利用者が使用していた物を持ち込み居心地のよさを維持できるように支援している。その人らしい居室となる様に趣味で作成したものを飾るなど、本人が落ち着いて生活できる様に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身でエレベーターを使い、他階へ行っていただいている。見やすい場所に時計、日めくりカレンダーを置いて、確認していただいている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371600731
事業所名	グループホームあすなる

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 自治会の回覧板から情報を得て、地域の行事に積極的に参加している。又民生委員の紹介により囲碁の交流会が行われたり、マンションの敷地の公園で弁当を食べたり、図書館に利用者の作品の水彩画、刺し子、工作の作品を展示して作品展を開催するなど、日々地域住民と関わりが持てるように努めている。	評価 ○
重点項目②	毎回会議の議題を設けて2ヵ月に1回定期的に実施されている。民生委員、包括支援センター職員の参加協力が得られ、運営推進会議で取り上げられた意見、要望等については、研修会や勉強会として取り入れ経過を話し合いホームのケアの質の向上を図っている。	評価 ○
重点項目③	ホームと区役所の距離は近く、ホームの相談、現状の報告をすることによって、指導等を受け区役所と密な連携をはかっている。区役所から紹介された研修会にホームの職員は随時参加してスキルアップに繋げている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 意見箱を設置しているが、家族の面会時に出来るだけ意見、要望、苦情を汲み取れるように、コミュニケーションを大切にしている。そして、出された要望、苦情などに対して改善出来るように取り組んでいる。利用者の生活状況を載せた「ホーム通信」や介護計画の記録などは、書面にて郵送で家族に知らせ家族から安心を得ている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。